



高山西ロータリークラブ

例会報告

第 2 6 3 0 地区 岐阜県 濃飛分区 創立 1 9 6 6 年 1 月 1 5 日

- 例会日 毎週金曜日 12:30~13:30
- 例会場 高山市花里町 3-33-3 TEL 34-3988
- 会長 折茂 謙一
- 幹事 米澤 久二
- 会報委員長 脇本 敏雄



「2012 秋の高山祭 獅子舞」 蜘蛛 康介

<会長の時間>

私は困ったとき、先が見えないとき松下幸之助氏の著書を紐解きます。氏は何万人もの人を見てきて、成功するのは頭の良さや勤勉だけではなく、運が必要だと述べておら



れます。幸之助氏自身も私は運が強い、運だけのものやなとも言っておられます。運とはどういうものか、生まれつきのものか、後天的に獲得できるのか大変興味があります。今回はシュリーマンの自叙伝を読んだのでその中で運がどのように影響しているのか検討しました。

シュリーマンは、子供のころ聞いた神話を信じてトロイアの遺跡の発掘を成し遂げました。子供のころ立てた計画を実現するため、波乱の人生の中で財を築き上げます。9歳の時母親が死に、これに勝る不幸はないと感じます。さらに牧師である父親が使用人と結婚しようとしたり、教会基金を横領した疑いで世間から総スカンを喰らいます。将来結婚して、一緒にトロイアの発掘をするつもりだった幼なじみのミンナという女の子と会えなくなり、前途に何の希望の光もないほど落胆します。11歳で高等学校に進学するのですが、父親が失職するという大変な不幸が降りかかります。大学まで進学する資力がなさそうということで、実業学校に転校します。卒業後、小さな小売店で5年半小僧として朝5時から夜の11時まで働き通しです。この惨めな状況から抜け出せる出口はどこにもないと思われた時、奇跡が起きます。重すぎる樽を持ち上げようとして、胸にけがをします。胸の痛みと咯血のため、働けなくなりその店を首になります。新しい職を探しては1週間くらいで次から次に職を代ります。普通の仕事は無理だと考えて船の上の仕事を探していた時、亡くなった母親の知人から小型船の給仕の仕事を紹介してもらいます。まったく無一文だったので、着しかないう着を売って、毛布を買って小型船に乗ります。ドイツを出帆後しばらくして大時化にあって難破します。小さなボートで荒れ狂う風浪の中で、9時間翻弄された挙句オランダの海岸に打ち上げられます。

シュリーマンはオランダに残るのが自分の運命だと考え、ドイツへ送り返してもらえるのを断ります。暮らしを立てる手立てのために、アムステルダムで兵士に応募する予定を立てますがうまくいきません。冬のアムステルダムで上着はなく寒さと飢えに

苦しめられます。幸福の気配は全く見えません。人に恵んでもらったお金を使い果たして無一文になり、仮病を使って病院に収容されます。小型船の給仕の職をあっせんしてくれた知り合いに手紙を書きます。この手紙が幸運なことに、知りあいが友人たちと祝宴の席についていた丁度その時に届きました。列席者一同が同情して相当額の寄付が集まります。そのお金と一緒にアムステルダム駐在のプロシヤ領事を紹介してくれます。この領事の紹介である事務所に就職します。給料が安いので暖房設備のない屋根裏部屋で寒さと暑さに苦しみますが、一生懸命勉強すれば貧乏から抜け出せるだろうと希望を抱きます。

不屈の勇気を出して寸暇を借しんで英語の勉強を始めます。声を出して多読したり、繰り返し繰り返し暗誦することで記憶力が強くなり、6か月後には英語をマスターします。この方法でフランス語、オランダ語、スペイン語、イタリア語、ポルトガル語と次々にマスターして行きます。この会社の仕事は小間使的なもので上役もシュリーマンの能力を認めてくれないので、友達の紹介で別の会社に転職します。新しい会社の経営者は、シュリーマンの熱心な仕事を評価して特別手当を出してくれます。この寛大さがシュリーマンの幸福への運命だったと彼は言っています。ロシア語の知識があればもっと役に立てるだろうと考えて、ロシア語をマスターします。このロシア語を使ってロシアの大インジゴ商人との取引をはじめます。数か月で目覚ましい成功をおさめます。自分でも新しい事業に乗り出し順調に発展していきます。シュリーマンは『神の摂理はしばしば実に不思議な具合に私をお守りくださった。そのために私は間違いなく没落してしまうところをたった一つの偶然で一度ならず救われた。』と言っています。

クリミア戦争中全財産をつぎ込んで購入したインジゴを中継地点の街の倉庫に保管したところ、その街が大火事になり街中廃墟になります。ところがシュリーマンの荷物は、大倉庫がいっぱいだったため2、3歩離れたところに新しく造った仮倉庫に保管されており、風が逆風であったため類焼を免れます。その後莫大な資産を築き42歳で事業を清算してトロイアの遺跡発掘事業に取り組みます。話はここまでで発掘については触れません。

以上の中で運がどのように関与しているのか。自分の力でコントロールできない部分は、母親の死亡、父親の失職、胸のけが、小型船の難破、オランダでの第二の職場の経営者の寛大さ、そして、最後の部分の街中大火の中でシュリーマンの荷物だけが類焼

奉仕を通じて平和を

例会報告

を免れたこと、どの一つが欠けてもシュリーマンの事業達成は無理であったと思います。大きな成功を収めるには前途に希望の灯が見えないほどの苦しい状況も必要のように思われます。

その出口の見えない暗闇の、どのくらい向こうに成功が待っているのかわからないところに運命の面白さを感じます。中村天風氏は、運命は心の置き所と言っていますが、シュリーマンの場合もやはり積極的な不屈の精神かもしれません。



する意識が益々高まっており、製造段階においてHACCPシステム等、より高度な生産体制が求められております。こうした情勢下、飛驒の酪農の持続的発展はもとより、岐阜県の乳牛の中核工場としての機能を担うことを目指し、HACCPシステムの導入に対応可能な整備を行い、食の安全を確保すると共に「差別化」した製品提供のため、生乳生産農家では牛群検定事業や乳質の改善・指導事業を積極的に行い、またビン製品の形態の充実や生乳出荷農家を限定した製品の開発等、市場でも差別化が図れる施設・設備として新工場を整備しました。

新工場は、小型ビンが15,000本/h、大型ビンが2,500本/h、小型紙パックが7,000本/h、大型紙パックが6,000本/h、発酵乳が4,500個/h、アイスクリーム1,200個/hの生産能力を持ち、飛驒の生乳100%使用の製品を製造しております。新鮮・飛驒産・安心をテーマに「搾りたてを食卓に」お届けしております。



<本日のプログラム> 職業奉仕委員会担当 職場訪問例会

委員長 小田 博司本日は、『飛驒牛乳ミルクプラント』にお邪魔しております。参事よりご説明をいただき、その後施設見学をさせていただきます。



飛驒酪農農業協同組合 参事 清水 輝夫 様

私ども飛驒酪農農業協同組合は、昭和4年5月、三福寺牛乳販売購買利用組合として設立されたのを皮切りに、24年には飛驒酪農農業協同組合として再スタートいたしました。40年、高山市神田町より岡本町に工場を新築移転、平成8年には神岡酪農農業協同組合と合併、さらに10年には益田酪農農業協同組合との合併を経まして平成21年、新宮町にて新工場竣工となりました。

現在は、多様化する消費者ニーズとともに、食の安全・安心に対

一期一会 「全員がロータリーカードを持とう!!」 小森 丈一

- 田中R I会長は我が国で3人目の会長です。会長は日本の全ロータリアンがRカードを取得し、東日本大震災の復興を助ける様訴えておられます。
- この度の、東日本の破滅的な地震と大津波、原発事故、未曾有の天災想定外の人災と、正に国難の様相を呈している中、我々は今何をすべきでしょうか。年内に利用されたRカード利用額の0.3%のロイヤルティーは全て震災復興に寄付されます。
- すでに幾つかのカードをお持ちでしょうが、この際Rカードを取得し、被災地の皆さんとライフラインを共有し私達の日常生活を支えるライフラインで被災地を支援しましょう。3年間利用の無いスタンダードカードは更新カードの発行がされませんので、直ぐに利用して失効を避けてください。田中R I会長年度をオール日本で盛り上げ様では有りませんか!



奉仕を通じて平和を